

長寿を祝う

「お祝い」伝統のかたち

『参拝・直会・饗宴』

というお祝いのかたち

長寿の節目には神様に感謝し、近しい方々と幸せを分かち合ひましょう。

参拝
さんばい



来し方をふりかえり、
これからの幸せを
祈りながら
神様に参拝します。

直会
なおらい



参拝の後に戴く
おさがりのお神酒には
新たな生命力を戴く
意味があると
いわれています。

饗宴
きょうえん



身近な人々に感謝し
明るい未来を祈りつつ
楽しい時間を共有しながら
お互いに英気を
養いましょう。

長寿を祝うという伝統

古代中国では「敬老思想」の影響から、長寿を祝い、詩を贈り合う習慣がありました。

それが日本に伝わり、平安時代以降、貴族などの上流階級を中心に、長寿を祝う儀式が広まったといわれています。

祝う歳は当初、四十歳、五十歳など十年刻みでしたが、鎌倉時代以降、

現代のような六十歳、七十歳、七十七歳、八十歳、八十八歳…という節目で祝うことが一般化したようです。

祝宴の前には御神前において「算賀祭」や「祝賀奉告祭」を行うことが習わしだといわれています。

長寿のお祝いには、命の営みを神様に感謝し、年を重ねる喜びや、家族・友人を大切に思う心を確認し合う節目の儀礼です。

年齢は、数え年、満年齢のいずれで数えても差し支えないものといわれています。（地域によって様々な習慣があります。）



61歳

還暦

ゆかりの色

赤

十干と十二支の組み合わせが六十年で一巡することから、数え年の六十一歳は、古来おめでたい年周りと考えられてきました。自分が生まれた年の干支に戻ることから「赤ちゃんに還る」という意味に重ねられ、赤を基調にお祝いする習わしがあります。

「還暦」の代わりに「華甲」という言葉を使ってお祝いをする場合もあります。「華」という字は六つの「十」と一つの「二」から成り、合計が六十一になります。また干支の最初「甲子」の「甲」は、物事の始まりを意味するといわれています。



70歳

古稀

ゆかりの色

紫

紺

古稀は、中国唐代の詩人・杜甫の漢詩の一節「人生七十年古来稀なり」に由来するといわれています。聖徳太子の定めた冠位十二階の最上位の色が紫であったことから、紫は一般的に高貴な色とされるようになり、やがて長寿のお祝いに用いられることが多くなったようです。



77歳

喜寿

ゆかりの色

紫

黄

「喜」という字の草書体は「七」を三つ並べた字で、「七十七」に読めることから、この字を当てるといわれています。その起源は、室町時代とも言われ、本来は厄年の一つであったようです。「寿」には「長命」という意味もあります。



80歳

傘寿

ゆかりの色

金茶色

黄

紫

「傘」を略した俗字が「八十」と読めることから、この字を当てるといわれています。金茶色とは、金色がかった明るい茶色で、古代中国の陰陽五行説で土を意味する黄色に通じるものとされ、万物を育成・保護する性質を表すともいわれています。



81歳

半寿

ゆかりの色

金茶色

金色

黄

「八」「十」を組み合わせた「半」の字をあてたものといわれています。また、将棋盤のマス目が「九×九＝八十一」であることから「盤寿」ともいわれます。



88歳

米寿

ゆかりの色

金茶色

金色

黄

「八」という字は古来、末広がりで縁起が良いものと考えられてきました。「八十八」を組み合わせた形である「米」の字を当てることで、日本人の命の源である「米」にも直結し、一層おめでたいものと認識されています。「米の祝い」「よねの祝い」と言われる場合もあります。



90歳

卒寿

ゆかりの色

白

「卒」の俗字「半」が「九十」と読めることに起因するといわれています。「鳩」の字の中に「九」があり、音読みも「きゅう」であることから「鳩寿」という場合もあります。



99歳

白寿

ゆかりの色

白

「百」という字から「二」を取った文字「白」で「九十九」を表現したものといわれています。「百年に二年たぬ九十九髪我を恋ふらし面影に見ゆ」という和歌が『伊勢物語』にあります。「九十九」は「次百」が転じたもの、また白髪の様子をソクモという水草に重ねたものといわれています。



100歳

百寿

ゆかりの色

白

文字通り「百寿」といわれたり、「世紀を表わす「紀」に因んで「紀寿」ともいわれます。「百」は数が多いことを表し、その語源は「モロモロ（諸々）」、「モノモノ（物々）」等が転じたものといわれています。六十歳を「下寿」、八十歳を「中寿」、百歳を「上寿」とすることもあります。